

ちいき新聞

2020年11月13日号

流山版

発行部数49,985部

VOL.760 全49版

総発行部数2,050,392部



今週の見どころ

- ☆情報満載「イベント情報」
- ☆読者の憩いの場
みんなのちいカフェ
- ☆バリアフリー演劇鑑賞会

ちいき新聞へのお問い合わせは ☎0120-152-337 ※音声ガイダンスに従ってご用件をお話しく下さい 受付/平日10:00~18:00 ※土日祝日は休み ✉nagareyama@chiikinews.co.jp



工房での製作風景

プラスワンモア!の学校 千葉県立特別支援学校 流山高等学園

障害のある人の職業教育を中心とした同校は、4つの専門学科に8つのコースがある。その一つ、工業技術科の木工コースは、授業で作った生産物を「TEAM WOODS」というブランド名で、流山おおたかの森駅などで販売実習をしている。



販売実習で人気のアニマル椅子を手にとる接客中

学習内容が 生徒たちの手間賃

木工コースの生徒たちが作るのは、椅子やテーブル、ガーデンング品など25種ほどの木工品で、その出来栄は高い。それを一般的な値段の3分の1ほどという低価格で販売している。その理由は、「作る手間賃を含まないため」とのこと。生徒たちが作ったこれ

らの木工品は「製品」と言わず「生産物」と言われる。それは、商品を作っているという考え方ではないからだ。

「生徒たちは製作や販売実習などの学習を通じて、自立心、協力、人との交流などを学んでいきます。その学習内容こそが生徒たちが受け取る手間賃です」と長年指導をしている正岡嗣啓教諭は話す。

社会自立を目指す 生きる力を育てる

広い工房で、電動ノコギリなどを使った製作は、効率を優先した分業ではない。全工程を1人の生徒が責任を持って作り上げるため、作る喜びを実感できる。また2年生には、1年生に加工方法を指導するという役割もある。

「教えることは自分

の技術向上につながります。さらには後輩を育てるという責任感を持つことは、自分を育てることでありま

大きな生産物を作るのが好きという村井真君(2年)は「学校の生徒は、みんな元気で明るい。だから自然に自分も明るくなります。両親は僕の作ったベンチをすごいね」と言ってくれます」と笑顔で話してくれた。

人と話すのが苦手だったという佐藤榎斗君(2年)は、「販売実習で、先輩が接客の仕方を具体的に教えてくれるので上達していきます。また、この学校には生徒と先生が、2人で会話したり相談をする時間が週1回あり、そのおかげで人と話すこともうまくなっています」と話してくれました。

「技術訓練だけでな

く、社会的自立心を養い、生きる力を育てる事を目指しています。木工コースの販売実習の他にも、福祉サービスクラスでは、月3、4回ほど、生徒たち手作りのパンとコーヒーを提供する喫茶店を開き、地域の人たちとの交流の場となっています。こういう面で、生徒たちは地域の人たちに育てていただいているといえます」と山崎寛雄(ひろゆき)副校長は話す。(敏恵)

※問い合わせ
0474-141-9900
千葉県立特別支援学校
流山高等学園



機関車型植木鉢